

銀行に働く労働者と顧客を守るために 労働組合を組織しよう

アメリカのグローバルバンク労働者を イギリス銀行労働者が支援

グローバル展開するスペインのサンタンディール銀行

スペインのサンタンディール銀行は、日本ではなじみがありませんが1857年創業の大陸ヨーロッパ最大の銀行です。ヨーロッパと南北アメリカに営業網を広げるグローバルバンクで、従業員数は18万8千人です。

サンタンディール銀行はヨーロッパや中・南米の国では労働組合を認め正常な団体交渉が行われていますが、アメリカでは労働組合に対して敵対的な姿勢を続け、国際的にも批判されています。リーマンショックをきっかけとする金融危機の中で、巨大銀行を政府が巨額の資金を投入して救済しました。これに対して、労働組合や市民団体からは、アメリカの銀行に労働組合がほとんど組織されていないことが金融危機を生み出す原因の一つだという声が上がリ、銀行に労働組合を組織することが呼びかけられました。アメリカ通信労組(CWA)はアメリカの国際サービス従業員組合(SEIU)などが最低賃金一時間15ドルを目指す運動に取り組んでいることに連携して、銀行の労働組合組織化に取り組んでいます。(当ホームページ「海外の動き」2016年7月15日 up「米通信労組が銀行労働者の組織化を呼びかける」参照)

<http://www.leaf-line.jp/~iflj/wp-content/plugins/download-monitor/download.php?id=211>

グローバルに金融労働者を組織しているUNIや、イギリスで銀行労働者を組織しているイギリス通信労組(CWU)はアメリカのサンタンディール銀行労働者の労働組合組織化の支援を表明し、交流を行い激励しています。そうした取り組みの中でアメリカのサンタンディール銀行で一つの前進を勝ち取りました。

銀行は今年1月、同行の最低賃金を1時間15ドルに引き上げると発表しました。これは銀行産業における他企業の動向と一致するものです。この決定は「より良い銀行を目指す委員会」(the Committee for Better Banks=銀行労働者、地域運動団体、消費者団体の連合)が取り組んできた運動の結果です。

最低賃金15ドルを制度化— 一歩前進

「銀行産業では大手銀行も小規模な地域銀行も、窓口テラーからコールセンターに至る労働者の

賃金を引き上げ要求にこたえ最低賃金を15ドルとしたが、サンタンディールはこれに応じた最後の銀行の一つである。これは、労働者と地域住民が最低賃金15ドルを要求し、我が国の最も高利潤をあげる産業を変革しようとする運動の成果である」とアメリカ通信労組のTeresa CasertanoさんがUNI Global Union ホームページで語っています。(UNI Global Union ホームページ 2018年2月2日公表記事)

銀行労働者の活動家はこの銀行の決定を評価していますが、さらにアメリカのサンタンディール銀行経営の労働組合敵視姿勢を変えることを目指しています。

組合活動に参加しただけで解雇

サンタンディール銀行の詐欺的な営業活動は繰り返し問題とされています。たとえば、アメリカの労働組合のナショナルセンターAFL-CIO は非営利組織の全国雇用法プロジェクト (National Employment Law Project) と共同で25ページに及ぶレポートを公表。「裏取引と災難 (Wheeling and Dealing Misfortune)」という表題のレポートは「サンタンディールの高圧なプレッシャーは、いかに労働者と自動車ローンの顧客に被害をもたらすか」という副題をつけられています。昨年(2017年7月)にはアメリカ通信労組と活動しているサンタンディールの労働者がこのレポートをもってワシントンの議会を訪問し、民主党の上下議員の面会。自動車ローン子会社サンタンディール・コンシューマーのコールセンターで働く労働者はサンタンディールが「顧客にコストとリスクをきちんと説明しないで、消費者ローンを拡張し、変更することを従業員に奨励している」と訴えています。(『アメリカン・バンカー』2017年7月21日電子版)

イギリスの通信労組(CWU)の機関紙「VOICE」12月号(2017年)では「アメリカのサンタンディール労働者と連帯」という記事を掲載し「CWU はアメリカサンタンディールの労働組合活動家に断固として連帯のメッセージを送る。彼らはこの銀行のアメリカのボスが行っている労働組合攻撃と断固としてとたたかっている」と表明しています。機関紙「VOICE」の記事では10月(2017年)に行われたアメリカサンタンディール労働者との交流集会の様子が詳しく紹介されています。この交流集会はグローバル労組UNIが組織し、CWUがロンドンで開催したのもです。アメリカのサンタンディールで労働組合を組織しようと取り組んでいる勇気ある労働者と、イギリスで長い間イギリスサンタンディールと正常でポジティブなパートナーシップ関係にある労働者が交流したと説明されています。

記事は、サンタンディールがイギリスだけではなくヨーロッパ全体で、さらに中・南米でも労働組合に開かれた対応をしていることを指摘。イギリスからの参加者はアメリカのサンタンディール経営者が、職場の団体交渉権を確立するために組織しようとするには言うに及ばず、労働組合に単に加入しようとする事さえも脅迫してやめさせようとしてきたことに衝撃を受け驚いた様子を伝えています。アメリカからの参加者の一人(女性)は彼女がアメリカ通信労組(CWA)の活動に参加したことが直接の原因となって解雇されています。ほかの参加者からも労働者が労働組合によって交渉権を確立することを阻止するために経営者が作り出している脅迫的な雰囲気は訴えられました。機関誌「VOICE」のデジタル版では、動画でCWUの組合員とアメリカから訪英したサンタンディール労働者合わせて11人の発言を交互に紹介しています。